



NEWS PAPER

Take Free!

SUPER FORMULA 2022 — P.M.U./CERUMO·INGING Race Report



@INTERVIEW

Sho TSUBOI #38
38号車 ドライバー 坪井 翔

これ以上ない くらいの収穫

Sena SAKAGUCHI #39
39号車 ドライバー 阪口 晴南

Yuji TACHIKAWA
監督 立川 祐路

Today's Race Rd.7 & Rd.8
Mobility Resort Motegi
8.20 SAT/21 SUN

@Race Archive Rd.5 SPORTSLAND SUGO

勝ちへの 競走 はしり 6

Vol.

We go!



©INGING MOTOR SPORT. Supported by WUCA Co., Ltd.

@Race Archive

Rd.6 Fuji Speedway

予選 7月16日(土)
天候 雨 路面 ウエット

スポーツランド SUGO で行われた第5戦では、なかなか思うような結果を残すことができなかった P.MU / CERUMO・INGING。捲土重来を期して挑む第6戦は、静岡県富士スピードウェイが舞台だ。4月の第1戦 / 第2戦ですでに一度レースを戦っているコースだが、7月の開催ということもあり気温も路面温度も大きく異なる。これまでの5戦で得られたデータをもとに、さらなる改善を期して準備

ウエットコンディションでタイムトライアル形式に

この日は東海から東北まで強い雨の予報が出ており、富士スピードウェイも午前から強い雨が降り、午後の公式予選の開催が危ぶまれるような状況ではあったが、幸い昼すぎから雨が少なくなり、コース上の水量も減っていった。ただ、ウエットコンディションであることは変わらず、競技会事務局は午後3時付けで、ノックアウト形式の予選から、午後3時10分~午後3時40分のタイムトライアル形式に変更する通知を発行した。30分間で最速タイムを記録したドライバーがポールポ



赤旗中断、そして豪雨に

坪井はまず、2周目に1分36秒858というベストタイムをマークし2番手へつける。一方の阪口は同じく2周目、1分38秒228を記録し12番手につけていくが、予想よりも感触は良くない。そんな状況のなか、#18小林可夢偉がクラッシュ。セッションは赤旗中断となってしまった。予選は午後3時26分に再開されるが、この間に雨脚が強くなってきてしまう。坪井、阪口ともに他車とともにコースインしていくが、やはり水量が多くなってきてしまった。ただ、そんななかでも赤旗中にセッティング変更を行った阪口が7周目に1分37秒881をマーク。9番手にポジションを上げる。さらに翌周、1分37秒278にタイムを上げ、難しい状況のなかでひとりタイムを上げた。一方の坪井は、赤旗再開後一度アタックに入っていくが、シフトにトラブルを抱え TGR コーナーでコースアウトを喫してしまう。なんとかグラベルから脱出しピットに戻ることができたのは幸いだった。

2台とも好タイム

終盤、雨量はやや弱まっていたが、残り7分というタイミングで、今度は #37 宮田莉朋がトラブルのため13コーナーでストップ。再度赤旗が提示された。セッションは午後3時49分に再開されるが、コースオープンとともにふたたび大粒の雨が注ぎはじめた。坪井もトラブルを解消し再コースインするが、残り2分のタイミングで雨量も多くなり走行が厳しい状態になってしまい、予選はそのまま再開することなく終了となった。ただ最終的に、坪井は2周目の、阪口は8周目のタイムが生き、坪井はフロントロウ2番手を獲得。阪口は2列目4番手と、2台が好位置につけることに成功した。予選の好位置はプラスの材料になるのは間違いない。チームは明るい表情で雨の予選日を終えることになった。

決勝 7月17日(日)
天候 晴れ 路面 ドライ

公式予選では、坪井翔がタイミング良くアタックし、フロントロウ2番手を獲得。ウエット路面でのセッティングが的中した阪口晴南も4番手と、今季ベストグリッドを揃って得ることができた P.MU / CERUMO・INGING。そのグリッドを結果に繋げるためにも、重要なのは7月17日(日)の決勝レースだ。

天候が回復し決勝に挑む

フリー走行の後、富士スピードウェイは急速に晴れ間が広がり、気温27度 / 路面温度37度という暑さのなか午後2時30分からの決勝レースを迎えた。直前のウォームアップで坪井、阪口ともフィーリングを確認し、阪口はグリッドでリヤの足回りを調整し、決勝に挑んだ。1周のエクストラフォーメーションラップの後に迎えたスタートでは、2番手の坪井はやや伸びを欠いたが、2番手で TGR コーナーに入っていく。ただ、ポールスタートの #19 関口雄飛に詰まる間に、アウトから #1 野尻智紀に先行を許してしまった。一方、4番手スタートの阪口は1周目のペースがあまり良いものではなく、#5 牧野任祐に先行された。



坪井、阪口ともに上位を走行中

1周目から後方集団ではアクシデントも起きるなか、3周目の2コーナーで大きなアクシデントが起き、レースはセーフティカーランとなる。9周目にリスタートを迎え10周目にピットインが可能になると、2番手の #1 野尻がピットへ。坪井は2番手、さらに阪口は4番手に戻りそのまま11周目にピットインを行った。ただ阪口はその後もひとつペースを上げることができず、防戦を強いられる展開となってしまった。一方の坪井は、トップを走る #19 関口に大きく離されることなくレースを進めていった。このドライブでのスピードは、坪井にとってもチームにとっても大きな自信となる。

レースアーカイブ Round.6 富士スピードウェイ

を整え、サーキットに乗り込むことになった。ただ、気になるのは事前の天気予報では雨が絡む予報が出ていたため、ウエットへの対処も重要になることが予想された。

セッションを獲得できるスタイルだ。午後3時10分、気温22度 / 路面温度24度というコンディションのなか予選がスタートしたが、その後少しずつ雨脚が強まることが予想されていたことから、全車が予選開始とともにコースイン。坪井、阪口も他車とともにウエットタイヤを履いてウォームアップに入っていた。



確信した勝ちレースは後半へ

た #19 関口のタイヤが外れコースサイドカーランとなるが、ピットアウトした坪井は追い抜きできなくなる第2セーフティカーランとなった。レースはセーフティカーラインまでアクセルを踏み込み、#1 野尻を先行することに成功した。「勝った！」— P.MU / CERUMO・INGING の誰もが確信した。

信じられないまさかの事態

しかし坪井がストレートに戻ってくると、まさかの光景が待っていた。坪井の翌周にピットインしていた #15 笹原京がコースに戻ってく

@INTERVIEW

坪井 翔

トップに立てたと思いましたが、1周戻りセーフティカーが見え、無線が入って初めて先行されたことを知りました。詰めが甘すぎました。残念な結果でしかありませんが、チームとしてはやっとなんかできましたし、これまで阪口選手とふたりで3点ずつしか獲っていなかったのが、やっと大量得点をする事ができました。残り4戦次第では順位を上げることもできると思いますし、チームポイントも追い上げることができました。表彰台に乗ることができたことについてはまずはホッとしています。またドライのペースについてはランキング上位のドライバーと同じようなタイムで走っていたので、その点はこれ以上ないくらい収穫だと思います。

阪口 晴南

まずはレースで大きなクラッシュもあり、ドライバーが心配でしたが、大きな怪我がないと聞いて安心しました。自分としてはスタートはうまくいきましたが、1周目のバランスが悪く、1台を抑えることができなかったです。その後はかなり厳しいディフェンスとなりましたが、単独走行ともなるとペースが上がらず、今年でいちばん苦しいレースになってしまったと思います。今シーズンいろいろ試したことが結果に残らず悔しいですね。坪井選手は速いペースで走っていたので、データなどもしっかりと共有して次戦以降に臨みたいですね。今までと違う部分も探っていきたいですし、見落としがないかしっかりと洗い出したいと思います。

Sena SAKAGUCHI #39

1周目から後方集団ではアクシデントも起きるなか、3周目の2コーナーで大きなアクシデントが起き、レースはセーフティカーランとなる。9周目にリスタートを迎え10周目にピットインが可能になると、2番手の #1 野尻がピットへ。坪井は2番手、さらに阪口は4番手に戻りそのまま11周目にピットインを行った。ただ阪口はその後もひとつペースを上げることができず、防戦を強いられる展開となってしまった。一方の坪井は、トップを走る #19 関口に大きく離されることなくレースを進めていった。このドライブでのスピードは、坪井にとってもチームにとっても大きな自信となる。

坪井 翔

38号車 ドライバー
Sho TSUBOI #38

これ以上ないくらいの収穫

立川 祐路

チーム監督
Yuji TACHIKAWA

好ポジションからのスタートで、常におもてなしの心でお客様をお迎えする。セーフティカーが出るタイミングでピットインでき、野尻選手の前に出ることができましたが、その後ピットとドライバーの連携がうまくいかず、1台先行されてしまいました。すごく残念ですね。阪口選手もウエットでは良かったですが、ドライになって苦しくなりました。確実に一歩ずつ歩くなってはいるのですが、もう少し改善の余地があります。今後に向けて良い材料にはなると考えています。しかし、今日はうまくいけば勝っていたレース。悔しいですし、監督である僕の責任でもあります。次回同じことがないよう、しっかりと取り組んでいきたいです。

総評 一瞬のジャッジで勝てるレースを落とし、悔しさが残ったが、チームにとっての今季初表彰台という結果と、坪井の好ペースという手ごたえを得る週末となった。

Mobility Resort Motegi

Today's Race Rd.7 & Rd.8 — 8.20 SAT / 21 SUN

GET!! 応援グッズ付き観戦券発売中!!

チームグッズと観戦券がセットになって登場!! セルモ・インギングをGETして応援しよう!!

38 坪井翔 予選 2位 決勝 2位
39 阪口晴南 予選 4位 決勝 12位